発行　平成１４年４月

研究レポート No.165

岩手県農業研究センター

「ひとめぼれ」における自然乾燥と機械乾燥の刈取り適期の違い

水稲の主要品種「ひとめぼれ」において、高品質米の安定生産のための刈り取り適期は、自然乾燥の場合は現在の指標通り黄化籾割合８０～９０％であるが、コンバイン収穫・機械乾燥の場合は黄化籾割合８５～９０％が目安である。

水稲の品質・食味を向上させるためには、適期刈り取りの徹底が重要である。現在、刈り取り適期の目安は、自然乾燥と機械乾燥の両方を含めて黄化籾割合 80～90%を基準としているが、より品質を向上させるため、乾燥方法の違いによる刈り取り適期の目安を示した。

黄化籾割合が概ね 85%以下では、同じ日に収穫した場合、機械乾燥では自然乾燥に比べて青未熟粒の割合が高く、整粒の割合が低くなる。しかし、黄化籾割合 85%以上では乾燥方法による品質の差はない（図１，２）。このことから、ｺﾝﾊﾞｲﾝ収穫・機械乾燥の刈り取り適期の目安は黄化籾割合 85～90%である（図３）。

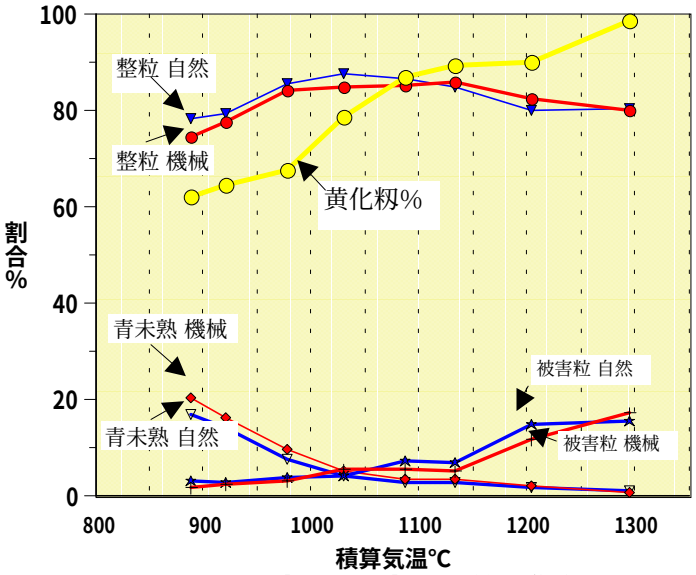


図１　刈り取り時期別の玄米品質の推移

1.7 ㎜篩調整玄米、平成 13 年、ひとめぼれ
機械：機械乾燥、自然：自然乾燥、被害粒：茶米･発芽等
積算気温：出穂後の日平均気温の積算

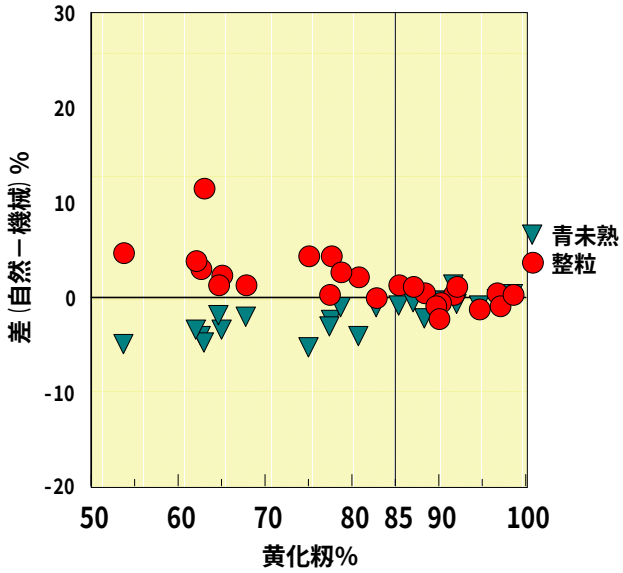
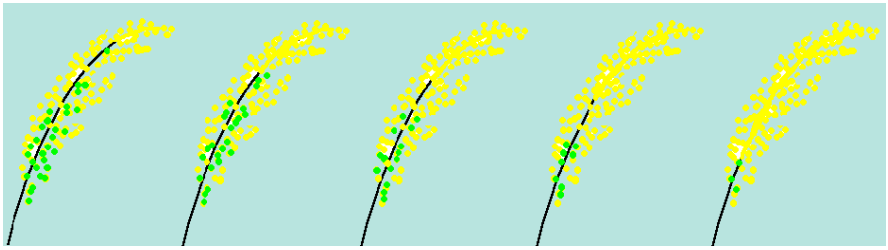


図２　自然乾燥と機械乾燥の品質の差

平成 10～13 年、ひとめぼれ、
1.7 ㎜篩調整玄米
差：自然乾燥－機械乾燥



黄 化 籾	70%	80%	85%	90%	95%
自然乾燥	刈取り早い	刈 取 り 適 期			刈 遅 れ
機械乾燥	刈取り早い	刈取りやや早い	刈 取 り 適 期		刈 遅 れ

図３　刈り取り適期の模式図

担当研究室　農産部　水田作研究室
〒024-0003　北上市成田 20-1　　TEL．0197-68-4412　FAX．0197-71-1081